

授業評価について(「目標申告書作成に向けて」より)

教員が自分自身の教え方を振り返る上で、生徒による授業評価の重要性は言うまでもないことです。生徒に評価してもらうことが有効と考えられる項目を書いてください。

・授業の理解度。・授業の進め方。

・本時のねらいや、やる内容を伝えているか。・板書の内容が適切でわかりやすいか。
・話のスピードと声の大きさが適切であるか。・発問の内容や数が適当か、授業にメリハリがあるか。

・授業の難易度。・生徒の理解度。・どのような教材を扱ってほしいか。・教員の姿勢や態度。

生徒が正しい評価をするかについては疑問がある。自分たちに都合がいいという意味で「やさしい」、「おもしろい（テレビのバラエティーやお笑いの的な）」授業や教員をよいと評価するのではないか。

評価は、やりとりが成立してはじめて効果がでるものだと思うので、記名でやることが大切だと思う。どの生徒が自分の授業をわかりにくいと感じているのか、進度が遅いと感じているのかをわからなければ、反省したり、それを活用しにくいと思う。

・板書は適切か。・説明はわかりやすいか。・声はよくとおっているか。・まじめにやっていない生徒を注意しているか。・授業のペースが適切か。

・わかりやすい説明の仕方をしているか。・生徒を平等に評価しているか。

自分の授業のやり方が、生徒にどのように理解されているかを知ることができる。また、どのような要求を持っているかを知ることができる。

・わかりやすさ（抽象的な言葉ではなく、具体的な言葉で。）。

評価するということは、評価できると言うことが前提となる。厳しいことを言わない先生が「よい」というような生徒には、評価する資格はない。一方で合理的な根拠を上げて評価がされるのであれば、それを受け入れなければならない。まずこのことを確認してもらいたい。その上で、単に○や×をつけるだけの評価ではなく、生徒の言葉を記述させることが大切である。

・授業に対する関心をたけメル工夫。・自分の将来の生き方との関連がみてとれるような授業をしているか。・授業内容のわかりやすさ。

・理解できたか。・熱意が伝わってきたか。

・板書。・説明。・考査の難度。・その他の指導。

・学習内容が詩との興味を引くよう工夫されている。難易度が適切である（内容、授業のスピード）。・生徒が授業に参加できている。しっかり取り組んでいる。・板書が適切である。・説明がわかりやすい（声の大きさ、スピード）。

・話し方（聞きやすい、普通、聞きづらい）。・この科目はテストで〇点以上とりたい。・授業進度（早い・普通・遅い）。できること（多い・普通・少ない）。

生徒にとってよい授業とは

・寝ていても起こされない。・しゃべっていても注意されない。・携帯メールしても気づかない。・席の移動は自由。・宿題をださない。・居残り補習をしない。・テスト問題を言ってくれる。・くつろいでノートをとれるスピード。・雑談をたくさんしてくれる。・授業中トイレ委にいてもよい。・勉強しなくてテストで点がとれる。
ということの反対のことを言われる授業であり、内容はしっかりと教えることを評価してもらう。

・生徒の話をしっかりと親身に聞いてくれるかどうか。・できたこと、伸ばせたことについて褒めてくれるかどうか。・わかりやすい授業かどうか。・ひきつける授業、工夫された授業であるかどうか。・できない生徒へのフォローがしっかりできているかどうか。

・授業の狙いが伝わったかどうか。・技術的なこと（声の大きさ、板書、指示の仕方等）。

本校の生徒からの評価は、好き、きらい、怖い、優しいの単純なところが大きいと思う。

生徒に評価されたくない。

・前時とのつながりがあるか。・声は聞き取りやすいか。・説明はわかりやすいか。・板書はみやすいか。・言葉は適切か。・一方的ではないか（教員だけが話していないか）。

大人の教師では気づかない子どもの目線から見た指導方法や言葉遣いを知ることができる。

生徒と教師で授業は成り立っているので、生徒からの要望は必要不可欠ではないか。よい授業を受けたいと思う生徒の声を拾うことは大事だと思う。

・授業のはじめと終わりは守られているか。・言葉遣いが適切で、説明は聞き取りやすいか。・生徒の授業態度に注意を払っているか。・授業の進むはやすさはちょうどよいか。・授業のレベル設定は適切であるか。・シラバスの内容にあった授業が行われているか。・生徒一人一人に応じた指導の配慮が感じられるか。

・教員の生徒への対応はよいか。・わかりやすい授業を行っているか。・自分の学力が向上したと感じられる授業であったか。・この授業を受けて、その教科（科目）が好きだと感じられたか。

・本校生徒を理解した上で授業が展開されているか。

・理解しやすいかどうか。そのために努力しているかどうか。・ノート教科書以外の創意工夫。

・項目は前任校のものを参照し、生徒に1から5までの評価をしてもらう。大切なのは生の声。

・話し方は聞き取りやすく、説明はわかりやすい。・板書やプリントはわかりやすく工夫されている。・授業に対する熱意。生徒を引きつける工夫はあるか。・授業の進度、難易度。・授業をとおして、科目への関心が高まったか。・授業に満足しているか。

・授業が理解できているか。・難しいか。・暇なときがあるか。・質問に答えてくれるか。・プリント、板書がわかりやすいか。

・その日の授業の目標と達成度。・理解度。・板書のわかりやすさ。字の読みやすさ。・ワークシート、資料、視聴覚教材等、教材の工夫。・授業参加度（発言、発表、能動的態度等）。・ユーモア度（その授業で一度でも笑いがあったか）。・共感、共鳴度。

・生徒の前での教員の態度（言葉遣い、表情、立ち振る舞い等、生徒に対して誠実かどうか。愛情が感じられるか）。・生徒にわかりやすく、教材を読みくだいているか（言いたいこと、覚えてほしいことが生徒に伝わっているか）。・授業の中で驚きや発見があるか（教科書に頼りすぎ、教科書に書いていること以外の知識が教員にストックされているか）。

・楽しくわかりやすいか。・考査前、受験前の親身な指導があるか。

生徒の率直な意見が聞ける。・教員のモチベーションの向上。

科目ごとに授業評価アンケートを行うと、生徒目線での評価が把握できると思う。・板書は字が読みやすく、簡潔で適度な量か。・声は明瞭でききやすいか。

・声の大きさ抑揚。・板書の仕方。・興味を引きつける授業になっているか。・プリントは工夫されているか。みやすいか。

・授業内容の理解のしやすさ。・その教科が好きか。・教材、副教材のわかりやすさ（意味のあるものになっているか）。・声の大きさ、板書の見やすさ。

・不満に思うことを書いてもらう。一つ一つの不満に対して、正当か不当かを開設する。そしてさらに議論を深める。

・考査時に授業評価の項目を入れている。生徒は、結構コメントをくれる。